

松本市アルプス公園自然活用検討会議設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、アルプス公園北側拡張部の自然活用を推進するため、市民の意見を聴く、松本市アルプス公園自然活用検討会議(以下「会議」という。)を設置することについて、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 会議は、次に掲げる事項について検討し、その結果を市長に提言するものとする。

- (1) 北側拡張部に必要な整備に関する事。
- (2) 北側拡張部の管理運営方法に関する事。
- (3) 北側拡張部の活用推進体制に関する事。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事。

(組織)

第3条 会議は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

1. 学識経験者
2. 関係団体の代表
3. 市民、利用者の代表
4. 前3号に掲げるもののほか、市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から第2条に規定する所掌事項について、市長に提言する日までの間とする。

(座長及び座長代理)

第5条 会議に座長1人及び座長代理1人を置く。

- 2 座長及び座長代理は、委員の互選により選出する。
- 3 座長は、会議を代表し、会務を総理する。
- 4 座長代理は、座長を補佐し、座長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、座長が必要に応じて招集し、会議の議長は、座長が務める。

2 会議は、座長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 会議の庶務は、建設部公園緑地課において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、令和3年11月1日から施行する。

(アルプス公園管理運営検討委員会設置要綱の廃止)

2 アルプス公園管理運営検討委員会設置要綱(平成16年告示第49号)は、廃止する。

アルプス公園拡張部基本計画（平成11年：1999年）

1. 理念

時代の背景から開園部と拡張部の一体的な利用によって公園利用の活性化と自然環境の保全を目標とする。

魅力ある里山の自然資源をもとに、公園全体の自然環境を再生し、より幅の広い自然とのふれあいの場、安らぎの場とする。また市民が利用しながら、将来、後生へと受け継ぐ能力のある自然を育成し、かつ保全することを目指す。

2. 基本テーマ

地域の自然と市民利用の共生

かつては里山として地域住民と密着した利活用地域であったが、現在は荒廃し、放棄されている。ここを公園化し、計画的に管理育成することにより、かつての里山のように人々と密接に関わり、親しまれるような環境作りをめざし、みらいへの大切な市民の資産として、育み、遺していくこと。

3. 基本方針

1. 人と自然の共生を目指す里山の再生
2. 開園部と連携した公園利用
3. 五感で感じる地域特有の自然と自然活動の整備
4. 地域の自然、レクリエーション施設とのネットワーク
5. 市民参加による公園の整備、運営

4. 土地利用計画

a. 利用地域

豊かな自然環境を生かしながら市民の利用に供する場所

7つのゾーン

b. 緑地保全区域

自然環境を保全、育成する場所

良好な樹林景観と多様な生物の生息域として、過度な公園利用を制限し、また野生生物の生息環境保全のために緑地保全活用計画

適切な管理によって再生する（ニセアカシア林の繁茂の林相転換や、あれた里山の整備などを行う）。植生などからいくつかのゾーンに分け目標設定を行い、適切な管理を行う。景観保全、環境保全、里山再生、生物多様性ゾーンなど。

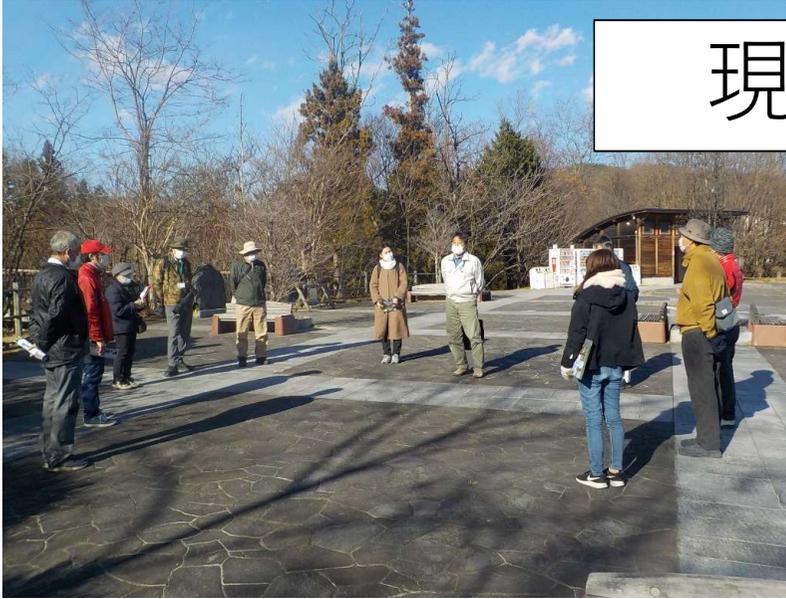
松本市アルプス公園自然活用検討会議 現地確認の実施

- 11/22 13：30 雨天のため中止
- 11/25 9：00～12：00 参加者
 - ・ 林 曜平
- 11/26 13：30～16：00 参加者
 - ・ 土田 勝義
 - ・ 高山 光弘
 - ・ 内田 佑香
 - ・ 村上 さよ子
 - ・ 小川原 浄
 - ・ 市川 里美

現地確認経路



現地確認



東駐車場



場 所	種 類	意 見
東駐 車 場	計 画	・当初の計画では、森の駐車場と呼ばれていた。夏の暑さや日差しをしのぐ樹木の多い緑陰林間駐車場①
	ハ ー ド	・入口が狭く車の出入りがしにくいので間口を広げてほしい①
		・駐車場の案内看板に活用の仕方など記入してほしい（初めての人がどこで楽しもうか選択しやすい情報が欲しい）②他の駐車場も同様
		・森の架け橋から見られる鳥類等の看板があってもよい③
		・自動販売機も整備されてる。⑦
		・一昨年移植されたケヤキを片付けた方がよい④
		・十分な収容台数である⑤⑦
		・植込みに樹木の植栽をする。①
	ソ フ ト	・行き方わかりずらく、存在を認識していない市民もいる。⑦
		・植栽された草木の手入れを。④
		・入口付近の雑草が抜かれておらず、公園の入り口としての景観が気になった。⑤

場 所	種 類	意 見
東 駐 車 場	ハ ー ド	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場入口の改良 ・ 看板の設置（鳥類） ・ 園内案内看板の内容の見直し ・ 樹木の植栽(緑陰のため)
	ソ フ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地から東駐車場までの誘導の方法（ ・ 枯れた樹木の片付け ・ 雑草等の片付け ・ 植栽の手入れ

アルプス森のかけ橋



場 所	種 類	意 見
かけ橋	ハード	・ 橋の手摺りが傷んでいるので、補修が必要①手すりの手入れをしてほしい④
		・ 架け橋からの眺望が良くふれあいの水辺も見える。案内看板があればふれあいの水辺にも行きやすい②
	ソフト	・ 橋からの景観が素晴らしく、野帳の観察に役立っている①
		・ 時々、スケボーをやっているが、狭いし通行人に危険なため禁止にすべき①
		・ ハチの巣は取り除いた方が安心①
		・ 整備されていて歩きやすかった⑤
		・ 自然と風を感じられる素敵な場所⑤
		・ 象徴的 フォトスポットにもなりそう⑦

場 所	種 類	意 見
かけ橋	ハード	<ul style="list-style-type: none">・手摺の補修・案内看板の設置
	ソフト	<ul style="list-style-type: none">・フォトスポットとしてのPR・危険行為の禁止（スケートボード）・景観のPR

ふれあいの水辺



位置図

ふれあいの水辺



場 所	種 類	意 見
ふれあいの水辺1	計 画	・上流の休耕田（民地）を復田し、稲作の体験学習の場とする。③
		・復田により、小型ゲンゴロウ類等の水生昆虫類が飛来したり、トンボ類（赤とんぼ）の産卵場となる。③
		・下流の沢沿いは湿生環境にあると思われる。自然植生の散策の場としたい③
	ハ ー ド	・橋の下にありアプローチが困難①
		・水辺を利用する野鳥や水辺に棲む水生動物や水辺植物、湿地、湿地林（ハンノキ林）など多様な水辺環境を有し、自然観察に適している。①
		・人けが少ないので、防犯的な対応が必要。①
		・私有地については、購入か借地をして整備をしてほしい。①③
		・公園唯一の流れのあるビオトープの水辺として価値がある。①
		・小さな川に思いのほか水生生物が多いので、案内板などを設置し、自然学習の場に②
		・水路の底面は漏水防止のためコンクリートのようになっていて水生昆虫に環境としては適していない。河床に礫があったり土砂や落ち葉が部分的に堆積しているこの環境を大切にしたい③
		・河床に礫を並べることにより水深の深い浅い箇所や、流速の変化をつけることができる。よって水生生物にとって多様な環境を確保することが出来る。③
		・水路に降りるのに1段石積があったが、来園者が水辺に行きやすくする手段を考える。④⑧
		・架け橋の先の案内看板が見えづらい場所にあり立地がわかりにくい⑤

場 所	種 類	意 見
ふれあいの水辺2	ソフト	・案内看板の内容が簡易的で新規の人が立ち寄るきっかけが少ないと感じた。⑤
		・水辺で多様な生物と直接的に触れ合える。四阿もあり家族連れも楽しめる⑤
		・駐車場にも近く、ピクニックなどをする場として最適⑦
		・子供向けというよりファミリー層以外の人たちがゆっくりできそう⑦
		・椅子と水場があるだけなので、呼び込める何かがあると良い。⑦
		・認知度も低く訪問者も少ない①
		・どのような生物が生息、生育、利用しているか調査不十分である、調査を行いそれに沿った整備や活用を考える①
		・14年前の開園時には完成していなかったので知らない人が多い②
		・現地確認でサワガニ、ガガンボ幼虫、トビケラ幼虫（巣）、カワニナを確認したもののカゲロウ類は見られず、トビケラ類も1種類で水生昆虫相は貧相に見えた。③

場 所	種 類	意 見
ふれあいの水辺	ハード	<ul style="list-style-type: none">・防犯対策・ビオトープとしての環境整備・案内看板の充実
	ソフト	<ul style="list-style-type: none">・水生生物の調査・施設のPR

森の入口広場（池）



位置図

森の入口広場（池）



場所	種類	意見
森の入口広場（池）	計画	・池は、年中水を張り多様な生物が生息するビオトープの池に復元する。①②
		・他所からの生物を入れないで自然に成立つ生態系を維持する。①
		・3種類あるガマは確実に生える場所なので、活用を考える。②
		・水生植物の管理方法を検討し環境の多様性を創出する。③
	ハード	・中島、浅瀬等を作り自然観察用に池の真ん中に行ける栈橋や木道の整備①③
		・通路の整備をお願いしたい④
		・飛来する昆虫類や鳥類のために整備を行う。③
		・広場に設置されている自動販売機と看板の老朽化が気になった。⑤
		・夏の水張、冬季の池干し四季に合わせた変化を付ける⑧
		・池は春～晩秋季は常時灌水し、晩秋季～冬季はt木戸に義等の水生植物や落ち葉の除去、池底の有機物を分解するために池干しをする。③
		・水があるとトンボや水生昆虫、水生植物、渡り鳥などを観察できる場となる②

場 所	種 類	意 見
森の入口広場（池）	ソ フ ト	・ ガマやカサスゲなど水生植物の管理を含め専門家に助言を得る。①
		・ 池の変化について知らないとただ寂しい印象のエリアとなる。⑧
		・ 刈り取ったアシ等を使って体験作成をし、池との関わり合いを持ってもらう⑧
		・ 夏の水を張っている写真を見ると来てみたいと感じた。⑤
		・ ヨシ等の刈り取りを行う場合、工作の材料としたりは燃料等としたりして有効活用する③
		・ 池の変化の状況を何らかの形でPRし、SNS等で情報提供したい。⑧
		・ 池の周辺にチョウを呼ぶ在来種の食草・食樹や吸蜜植物を植える③

場 所	種 類	意 見
森の入口広場（池）	ハード	<ul style="list-style-type: none"> ・池を自然観察用の整備（栈橋・木道・中島） ・見やすい看板の整備 ・
	ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・池に水を張りビオトープの池を目指す。 ・水生植物の管理方法を検討し、専門家の助言を得る。 ・池についてPRを行う。 ・刈り取った葦や植物でワークショップを行い体験学習を行う

森の入口広場（北側）



位置図

森の入口広場（北側）



場 所	種 類	意 見
森の入口広場（北側）	ハード	・ 休憩所の裏は森に囲まれた草地となっており、簡易な観覧席があるので様々な活用が出来る①
		・ 建物の裏にあり認知されてないため誘導のための案内看板が必要①
	ソフト	・ 休憩所の裏は森に囲まれた草地となっており、簡易な観覧席があるので様々な活用が出来る①
		・ 平地でアルプスが展望できる、西側は樹木が生い茂っているため間伐を希望①
		・ 子供や市民による野外演奏会等の催し、ピクニック、野外休憩所として活用してもらえようPRが必要①

場 所	種 類	意 見
森の入口広場（北側）	ハード	<ul style="list-style-type: none"> ・建物裏側にあり認知されていない場所のためPRと看板設置
	ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・アルプスの景観を確保するため西側の間伐 ・簡易な観覧席があり様々な催しを行うためPRが必要

森の入口休憩所



場 所	種 類	意 見
森 の 入 口 休 憩 所	計 画	・ 自然観察会の室内教室、学習の場、工作場に利用①②
		・ 各種ボランティアの控室、交流の場や会議室に使用①②
		・ 来園者の休憩場と活動団体の拠点としての利用③
		・ 自然を紹介する展示室①
	ハ ー ド	・ 休憩場に園内の倒木や間伐材を使用した薪（チップ）ストーブを導入する③
	ソ フ ト	・ 利用実態の把握を行う①
		・ 休憩所や誰でも気軽に立ち寄り利活用できる場所としてPRを行うこと②
		・ 夏にはオオムラサキがいて、手にとまってくれることもある②
		・ 建物の存在はしっていたが、案内板に詳細が明示されないなどPR不足のため、入ることを躊躇してしまう雰囲気であった。⑤
		・ 写真の展示や内観が素敵なので多くの活用を望む⑤
		・ 人が常駐しているという安心感がある⑦
・ 誰もが通る場所なので休憩所や誰でも気軽に立ち寄り利活用できる場所にしてほしい②		
・ このスペースを借りるためにはどうしたらよいか説明が無く、利用しにくい⑧		

場 所	種 類	意 見
森の入口休憩場	ハード	<ul style="list-style-type: none"> ・薪ストーブを導入し間伐材の利用 ・案内板の設置による利活用の向上
	ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが気軽に立ち寄れるスペースづくり ・施設のPRを行う ・人が常駐している安心感の発信

古民家体験施設



位置図

古民家体験施設



場 所	種 類	意 見
古 民 家 体 験 施 設	計 画	・かつて四季を通じて里山の暮らしの体験や、文化や歴史を学ぶ場①
		・季節に応じて様々な農事や行事を体験の場（そば打ち、竈炊き、ほうとう、餅つき、七夕、おやきなど）①
		・農家の人たちの協力を得て、農作業とまき拾い、まき割、炭づくり、わら細工等民具作り、昔話を話す、聞くなど子供と大人が一緒になって取り組む。①
		・来園者の休憩場とともに、活動団体が拠点として利用できる場とする。③
	ハ ー ド	・北駐車場から入りやすくして利活用の向上を願います。②
		・囲炉裏の管理は煩雑なため、薪（チップ）ストーブの導入し、園内の倒木や間伐材を加工して利用する。③
	ソ フ ト	・森の入口休憩場と同様に様々なことができる。②
		・リーズナブルな価格で利用できるにも関わらず、年数回の利用にとどまっている状況に問題意識を持った。⑤
		・ピザ窯を貸し出している施設は、市内に聞いたことがない積極的にPRしても良いのではないか⑤
		・今後はこの場所を利用してイベントを開催する等の利活用が十分可能な場所であると感じた。⑤
・施設がしっかりしていてBBQ、ピザ窯など魅力的なコンテンツがあるもっと利用されて良いと思うが、駐車場からの距離が難点。運搬サービスがあれば利用率があがる。⑦		
・このスペースを借りるためにはどうしたらよいか説明が無く、利用しにくい⑧		

場 所	種 類	意 見
古 民 家 体 験 施 設	ハ ー ド	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薪ストーブの設置と間伐材の利用
	ソ フ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山体験の実施 ・ 利活用向上のため施設のPR ・ 北側駐車場からのアプローチ

森の里広場



位置図

森の里広場



場 所	種 類	意 見
森 の 里 広 場	計 画	・ 広場は春は梅が咲き、タンポポや野の花が咲いて、野鳥が飛び交うのどかな風景。樹林の下にはカタクリなどが咲き、写真撮影にも人気の場所となっている。季節を通していろいろな野草が咲き、蝶も飛んでいる里地の特徴を持っているのでこのままでいいと思われる。①
		・ 広いスペースに畑が残り、ピザ窯やバーベキューのできる場所があり、全体を活用して環境学習（教育）、畑での体験、植栽の果実刈、動植物の身近な観察など、小中学生（子供）から大人まで幅広い人々に関わってほしい（関われる）所です。大いに活用できるよう工夫やPRを。②
		・ 薬草園を復活させる。③
		・ 古民家体験施設の庭（周囲）か畑地の際などの適地に、在来植物の観察園を新設し、環境学習の場として活用する。③
		・ チョウを呼ぶ食草・食樹や吸蜜植物を植栽する。③
	ソ フ ト	・ また畑を利用して、地物の野菜、菜の花、そば等を栽培し、収穫して古民家で調理して食べる体験もできる。果樹の植栽も考えられる。薬草園をどうするか検討する。①
		・ 畑は学校と連携して農業体験が通年できると、学習の場となる。子どももその後の経過を見に足を運ぶ⑦
		・ 市民農園が人気で足りてないとのことなので、市民が借りられる畑のスペースになってもよいのではないか⑧
		・ 古民家体験施設に水場もあるのでここで収穫したもので、イベントが出来そう⑧

場 所	種 類	意 見
森の里広場	ハード	
	ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬草園の利用 ・ 農業体験の場として利用 ・ 里山生活の体験場として作物の収穫を行う

養老坂



位置図

養老坂



場 所	種 類	意 見
養 老 坂	ハ ー ド	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史のある坂として（塩の道）当時のまま残る道として、案内板の施設②
	ソ フ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・やや急傾斜の歩道であるが自然観察、探勝の山道として利用できる①
		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な植物がみられる①
		<ul style="list-style-type: none"> ・枯れ葉が多く、急斜面で歩くのが大変であったが、昔から利用されていた道が残っている。貴重な体験ができるスポットになる。⑤
		<ul style="list-style-type: none"> ・見つけるのが困難⑦

場 所	種 類	意 見
養 老 坂	ハ ー ド	<ul style="list-style-type: none">・道標の設置・歴史ある坂として説明看板の設置
	ソ フ ト	<ul style="list-style-type: none">・様々な植物がみられる自然観察の場としてPR

北入口広場



場 所	種 類	意 見
北 入 口 広 場	計 画	・ 放棄水田（棚田）を復旧し体験学習の場とする。③
		・ 上部池は手を付けずに、水生昆虫(トビケラ類やクロスジギンヤンマ等の幼虫等) やカエル類（ヒキガエル、ヤマアカガエル等）の観察の場として活用する③
	ハ ー ド	・ 駐車場は出来る範囲で拡張する①②
		・ 田んぼ3枚は稲作として利用できれば、コメ作り体験ができるが、水の管理の可否による①
		・ 水田として出来なければ、ある程度水を貯えて、水辺のビオトープとして上段の小池と主に自然観察や自然に親しむ場とする。①
		・ 案内板が老朽化のため、文字が消えかかっている内容が把握できなかった⑤
		・ 森の里広場と同じく収穫体験ができると学習の場になる⑦
	ソ フ ト	・ 入口には雑草が生えており、印象が悪かった⑤
		・ 裏山は臨床の植物が豊かなので、何らかの形で活用出来るが、開放すれば踏み荒らされ、盗掘などが予想される。①
		・ 芝生が邪魔をするので、下段に水田などは無理。むしろ植栽をした方が良い②
		・ 現存の池は、水生生物の調査のうえ、落ち葉などで埋まってしまわないよう多少の手入れや保全が必要。②

場 所	種 類	意 見
北 入 口 広 場	ハ ー ド	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場の拡張 ・ 水田復旧 ・ 案内看板の更新
	ソ フ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上部池を水生生物の調査を行い、水辺のビオトープとし自然観察を行う ・ コメの田植えから収穫体験を行う

しぜんかんさつの森



位置図

しぜんかんさつの森



場 所	種 類	意 見
し ぜ ん か ん さ つ の 森 1	計 画	・ 拡張部の里山の森のイメージを残す核心部分①
		・ より良い森に関する学習の場、学びの場とするには、樹種の転換や、択伐、臨床の整備など明るい森にして生物多様性の豊かな森づくりを行う。 ①
	ハ ー ド	・ 樹種転換→西側のニセアカシア林はできる範囲で伐採して コナラ、クヌギなど広葉樹を植栽する。(どんぐり等を播種) ①②
		・ しぜんかんさつの森に入るには各駐車場から遠く、坂道も多くあり時間、労力がかかるため、万人の利用は難しい。①
		・ 四阿や小園地などの整備は整っている。①
		・ 使用中止となっている展望デッキは至急整備する①②
		・ 近場として、第2のしぜんかんさつの森を花の丘の北西地の森（ニセアカシアが少ない明るい雑木林）に整備したらどうか①
	・ 鳥類、チョウ類等の昆虫類の多様な生息環境の創出のため、一部を間伐し、明るい空間をつくる③	
	ソ フ ト	・ 伐木は有効活用する①
		・ 南側のデッキ下にはピンク色のマユミの群生があったが今は何もなくなっていた②
		・ 展望のための伐採が必要①
		・ 西側の眺望をよくするには必要最小限の伐採で対応②

場 所	種 類	意 見
し ぜ ん か ん さ つ の 森 2	計 画	・歩いてわくわくするような森になると良い⑦
		・自然学習を行うフィールドとしては、歩道外で歩行者の安全にかかわらないエリアは自然のままにしておき、その情報を発信することで自然学習の意義を生みだしたい⑧
	ハ ー ド	・観察デッキが破損していて、遊歩道に倒木が多く整備されていない状況⑤
	ソ フ ト	・パンフレットに採用されている写真と現状が別物で、観察デッキを楽しみに来た人々は残念に思う。⑤
		・倒木が目立ちました。⑧

場 所	種 類	意 見
し ぜ ん か ん さ つ の 森	ハ ー ド	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間伐の実施（景観・鳥類やちょうなどの生息環境の創出のため） ・ デッキの破損を早急に直す ・ 倒木処理 ・ 駐車場の設置要望 ・ 道路の拡幅
	ソ フ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山のため樹種転換を行う（ニセアカシア→コナラ、クヌギ） ・ 倒木の処理 ・ 景観のための伐採・間伐

山の神



位置図

山の神



場 所	種 類	意 見
山 の 神	計 画	・ 古道の雰囲気を残す場所として活用①
	ハ ー ド	・ ベンチは狭い場所なのでなくてもよい②
		・ 尾根を通る歩道は山鳩コースと呼ばれているが、西側はアルプス展望が素晴らしいので、アルプス展望コースとしての機能もあり整備することが望ましい①
		・ アルプス公園が昔から人の生活と切っても切り離せない里山であったこと、歴史のある場所であることを（山の神のいわれ）知らせる看板設置が必要②③
ソ フ ト	・ かつて周辺はアカマツが多かったが松枯れで伐採されている。伐木処理が必要	
	・ 標識が倒れかかっていたり山の神が祀られている祠の周囲が雑草に生い茂られていたことで、神が祀られている場所の印象が薄かった⑤	

場 所	種 類	意 見
山 の 神	ハ ー ド	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチの撤去 ・アルプス展望コースとしての歩道整備 ・山の神の説明看板と道標の設置
	ソ フ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・倒木の処理を行う ・祠周りの雑草を処理

花の丘



位置図

花の丘



場 所	種 類	意 見
花の丘1	計 画	・星を観察する場所としての利用も考えられる。①
		・この場所をどうするかは論議が必要である。①
		・当初現地あるいは郷土の植物を植栽し、四季を通じていろいろな草や花木の花が咲く園地とするものであった。①
	ソ フ ト	・現状では大半は芝地となっていて、園芸種が階段や周囲に植栽、栽培されている。①
		・芝地は遊んだり、休んだりする広場として利用されているが、その利用価値はある。①
		・名前のおり花の丘にするならば、北側区域はススキ草地とし、四季様々な野草が咲き様々な昆虫が生息、訪問する草原（草原ビオトープ）にすることも考えられる。①
		・東側の階段斜面はツツジが植栽されているが、だいぶ傷んでいる。①
		・花壇があっても周りの芝生の入り込みが激しいのでそれを防ぎつつ秋の七草など多年草を植えるのはどうか②
		・一部は有志によって小規模な野草園が作られている。①
		・春から秋にかけて花が咲く低木類（出来るだけ郷土種）を植栽するようにする①

場 所	種 類	意 見
花 の 丘 2	ハ ー ド	・ 広々とした場所で、市街地の景色も見えた。しかし、花壇の端にゴミや道具が散らかっている箇所があり、好ましくないと感じた。⑤
		・ 東駐車場から比較的近く、開放的でトイレも設置されていることから、小さい子供連れの家族や、園児、小学生の団体にとって利用しやすい場所③
	ソ フ ト	・ この場所の周囲は、植物、鳥類、昆虫類を観察しやすいことから、小さい子どもや親子等が自然にふれたり、環境学習を行ったりする拠点として利用する③
		・ ツツジ、サツキやシモツケなど植栽されたものに枯小枝が目立つ。植替えやより環境に適した植物への植替えを検討②
		・ 在来植物（チョウの吸蜜植物、食草・食樹や鳥の冬季の餌となる実のなる木）をふやし、観察する空間をつくる。③
		・ りんご音楽祭のステージとして使われていることにびっくりした。⑦

場 所	種 類	意 見
花 の 丘	ハ ー ド	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低木の整備
	ソ フ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当時は四季を通じていろいろな四季の花が咲く場所の計画であったが、この場所をどうするか論議が必要 ・ 草原のビオトープも考える。 ・ 星の観察会としての利用 ・ 松本市街地の景色がみえる。

園路



場 所	種 類	意 見
園路 1	ハ ー ド	・園路の路面は歩きやすくなっている。一部ではチップを使い歩行者に優しい①
		・ある程度歩ける人には良い散歩道、運動場所となっている。①
		・全体に傾斜があり、老人、幼児には厳しい。①
		・中心部分や各施設に通じる園路は傾斜があり、距離も長いので行かない人が多いと思われる。①
		・山道は現状で良いと思われるが、道標が少ないのでわかりにくい。①
		・花の丘、森の入口広場から山の神に行く付近はいくつかの支線があり不案内①
		・自分がいる位置を案内図で確認できるようにしてほしい①
		・カバーしているチップも消失しているところがあるので、整備が必要。①
		・北の入口から古民家体験施設までの園路に野鳥の写真スポットがあるが、写真撮影者が園路にたまり、一般の来園者の通行の妨げになっているので、デッキなどをつくり、撮影場所を設けることが必要①
		・『森の入口⇄森の里広場⇄北入口広場』の園路は障害を持った人も利用できるように車いすが安全に通ることが出来るよう整備したり、園路沿いに植物の香り、鳥のさえずり、触って感じることでできる木や草等の五感で自然を感じて癒される仕掛けを設置したい③
・ウォーキング、散策に利用する方が多いので、利用しやすいような整備・管理をする③		

場 所	種 類	意 見
園 路 2	ハ ー ド	・遊歩道部分の両側の刈込は歩行の邪魔にならない程度に切りすぎないようにしてほしい。②
		・『養老坂⇄しぜんかんさつの森⇄山の神⇄森の入口広場』と「山の神⇄花の丘」の区間の園路は、犬等のペットを連れて歩くことを禁止する。（人獣共通感染対策と犬等が苦手な人が狭い道ですれ違うと困惑する）③
	ソ フ ト	・森林浴のような癒しのための散策コースを設定し、見どころや消費カロリー等をパンフレットや案内看板で示す③
		・園内の倒木や間伐を行った間伐材はチップに加工して、園路に敷く③
		・コンクリートで舗装された園路はとても歩き易かった⑤
		・遊歩道は倒木や蔓などが道にあり、足元が不安定で歩きにくかった⑤
		・倒木が放置されている状態が悪印象であった⑤

場 所	種 類	意 見
園 路	ハ ー ド	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道標や看板の設置を行う ・ 園路のチップ等がなくなっているような場所は再整備を行う ・ 園路は車いすでも利用できるように整備する『森の入口⇄森の里広場⇄北入口広場』 ・ 遊歩道のに倒木や蔓などがあり歩きにくく再整備が必要
	ソ フ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園路を占用し、公園利用者の通行の妨げをしている箇所は施設等を検討する（鳥類の撮影場所） ・ 犬等のペットを連れて歩くことを禁止することも考える。 ・ 案内板の設置と共に距離や消費カロリー等を書くとジョギングやウォーキングの利用促進につながる

四阿



場 所	種 類	意 見
四 阿	ハ ー ド	・ 何カ所か荒れているものがある。①
		・ 木製の椅子、ベンチ、机はアルミ製にする。①
		・ ロケーション重要。四阿に限らず、公園全体可能な限り立ち木を整理してほしい④
		・ 中の腰かける部分には土や枯れ葉がつもっており、実際に座ってみても生い茂った木によって景色を見ることが出来ずに残念であった。⑤
	ソ フ ト	・ 養老坂登り口と花の丘、北側の四阿の利用頻度はどれくらいでしょうか？②
		・ アルプスや安曇野が見渡せる場所は樹木が茂り遠望できない状態なので、展望をよくするために、一部を伐採することを考える。また展望デッキも同様①②
		・ 立派な建物であるにもかかわらず、ひっそりと気配を消してたたずんでいたが、使用されている痕跡はなかった。⑤

場 所	種 類	意 見
四 阿	ハ ー ド	<ul style="list-style-type: none"> ・ 椅子・ベンチは木製に、机はアルミ製のものに変える
	ソ フ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腰掛に枯れ葉が積もっており、手入れが行き届いていない四阿がある ・ 四阿周辺はロケーションを重視して、間伐をおこなう ・ 四阿を利用していただくよう案内看板やパンフレットでPRを行う

場 所	種 類	意 見
そ の 他	計 画	<p>・市民にとって72ha以上の公園はとても貴重で恵まれた自然資源です。行政と市民一体となって、活用し維持し育て続けることが大切だと思います。まずは、拡張部の利活用を最優先に考え公園整備につなげてほしい②</p>
		<p>・利活用及び保全・再生等のゾーニングを行うと共に、それぞれの基本方針や取組み内容等を整理することが必要である。（取組みの実施・参加主体・予算、時期等も含む）③</p>
		<p>・北側拡張部はかつて薪炭林として利用していた場所であることから「里山」という基本コンセプトを踏襲する。③</p>
		<p>・里山は農地、水場、住居、牧畜、刈場、樹林からなるので、里山公園はこれらをセットで用意し、活用を図ることが理想であるが、すべては無理であるができるものはあり、刈場（萱場）はススキを植えて、造成し年1回刈り取りを行い維持する①</p>
		<p>園内を走行する車両は、車両更新時に電気自動車に変える（予算措置必要）。③</p>

場 所	種 類	意 見
そ の 他 2	ハ ー ド	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森の入口広場に近いところで山羊の小さな牧場を設け好適な日に小鳥と小動物の森から借り出す。①
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 植物や動物調査を行い、生育、生息する生物を把握し、また季節の変化に応じた花暦、昆虫の成虫期間暦などを作成し、特別なものについては生育地をマップで示した案内図をつくる。①
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園内とはいえ道に迷うと危険であるため、園路が分岐する箇所すべてに標識を設置する。③
		<ul style="list-style-type: none"> ・ アルプス公園の情報自体の発信が弱く感じた。ホームページを見ても公園の全体像が浮かばず、魅力的なスポットも様子が分かりずらいと感じる。また、園内のスポットごとの案内板が少ないように感じた。⑤
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園内に設置されている案内板の老朽化や雑草が気になり、公園全体の管理状況に不安感を覚えた。⑤
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設が遠いので利用度が低いこともあり、各施設（ゾーン）でいろいろな催し、作業を行って人々の参加を促す。それには様々なボランティア団体・個人、市民の協力が必要である。①

場 所	種 類	意 見
そ の 他 3	ソ フ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森の里広場近くの斜面にあるカタクリ群生地や、しぜんかんさつの森の北側や北入り口広場にあるアズマイチゲ等の貴重植物を来園者に積極的に周知するのか、あるいは保護するのかといったことを検討する必要がある。③
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の市民団体等を中心に、管理や運営の参加・連携・協働のための新規組織をつくることも考えられる（活動財源等は用件等）。③
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存組織（もしくは新規組織）のメンバーが来園者に対して自然や動植物等を開設したりするガイドとして活動できるガイド制度を創設する（山と自然博物館と連携）③
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「北側拡張部」の名称を付ける（愛称を募集してもよい）。③
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園案内（A3版2つ折り）の地図の、特に北側拡張部の園路は主要路と脇道のように区別をつけたり、坂道のアップダウン方向を示したり、地点間の所要時間を示したりするとより分かりやすい。地図を裏面全体で大きく示すとよい。③
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園管理に関わる方々に対し、危険生物への対応（遭遇回避含む）や、来園者がマムシ、ヤマカガシに咬まれたり毒毛虫等に触れたりした場合を想定した応急処置の訓練や研修会を開催するとともに、応急処置の器具（ポイズンリムーバー等）・設備（タンカ等）や緊急連絡体制を再確認する。③

場 所	種 類	意 見
そ の 他 4	ソ フ ト	<p>・古民家をはじめとした施設は広報の仕方次第で利用者増加が見込めるのではないかと。ただ、自然環境の保全との両立は課題であると思う。⑤</p>
		<p>・そもそも敷地が広大で、適度に休憩スペースもあるので年1回イベントを開催しまずは市民に足を運んでもらう。そのうえで存在を認識してもらい利用率を上げていく。⑦</p>
		<p>・上記のようなエリアごとの自然の見せ方はいろいろな意見があると思いますが、それをどうPRしていくかがセットになると強く感じました。エリアごとの良さや自然に触れあえるための施策を皆さんが一生懸命考えても、それを周知できなければ一部の人しか利用しない現状は変わらないので。そのPRのための提案は、若手でできることだと思っています。12月15日の会議で皆さんの自然活用のご意見を伺った後に、具体的な方法を提案事項として考えてみたいと思っています。⑧</p>
		<p>・畑を使った農業体験学習と食育を学校と連携して実施していく。⑦</p>
		<p></p>

教育行政、教育委員会に関わる事で良く分からないが、学校教育、教育課程、教科外活動の中で、小学校・中学校又は合同で古民家体験施設周辺での日帰り昼間のキャンプの計画を下記の通り考えてみました。

- 1 日程として、朝から夕方までとし
- 2 目的は、参加者同士の交流
災害時又、防災等を考慮、想定し、その施策のきっかけに
- 3 方法は、テント張り・テントの利用可能人数により班編成し自然体験学習
 - ・テント張
 - ・昼食の用意
 - ・食事
 - ・防災関係学習
 - ・自然観察、動植物学習

4 効果

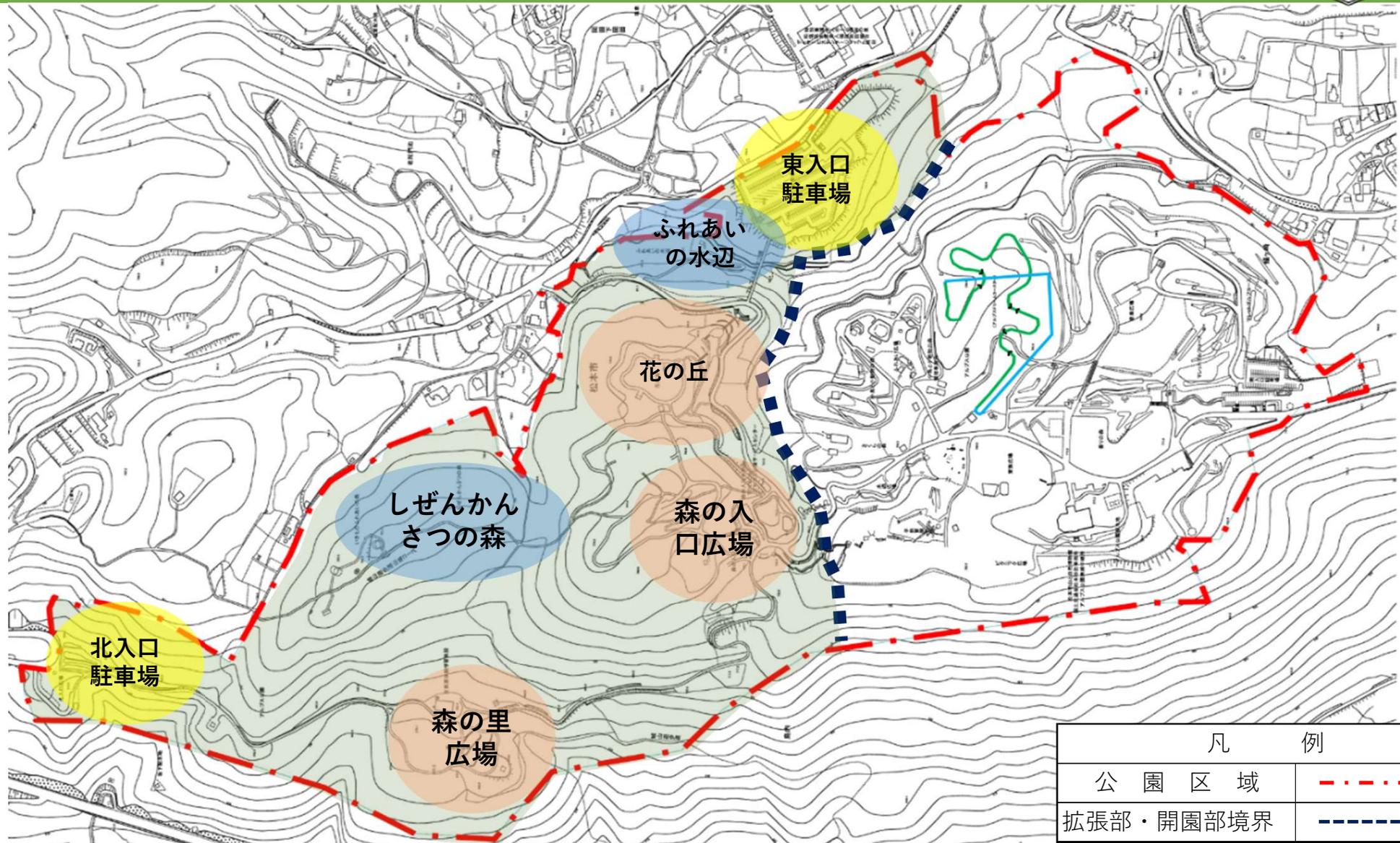
北アルプスを背景とした雄大なロケーションのもとで、北側拡張部全域を散策し、自然とふれあい参加者同士助け合い学び合うことの素晴らしさを体験

北側拡張部の踏査、散策にはよほどの時間と労力を掛けないと、その目的が果たせない。

予約許可制で最小限、軽自動車、電動カート等を安全のため市の方で用意し、公園内道路で利用してもらう。

ただし、目的場所までの荷物運搬、高齢者等身体に負担の掛かる者へとする。

アルプス公園 北側拡張部 自然活用ゾーニング図



凡 例	
公園区域	---
拡張部・開園部境界	---

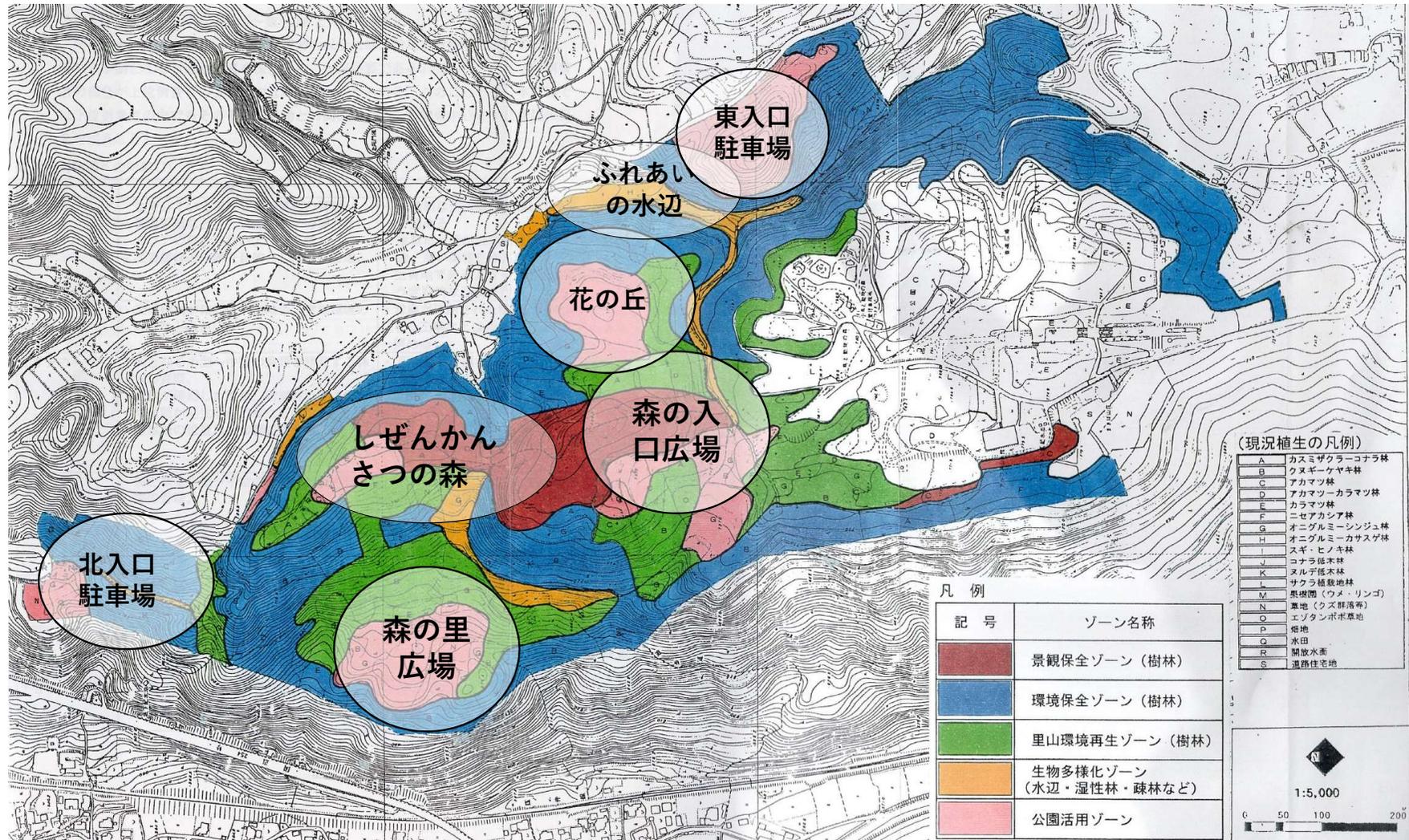
土 地 利 用 計 画			
ゾーン名	整備方針	利用計画	機能
1 森の入口広場	拡張部と既開設部の中継地、拡張部のエントランス空間の創出。	<ul style="list-style-type: none"> ・拡張部の南端、既開設部との結節点に当たるゾーンを拡張部の入口として位置づけ、公園全体の案内や自然体験・観察のための各種施設、休息施設を併設したセンター施設を整備 ・斜面の産地や沢を生かしながら、できるだけ地形に沿った広場の整備とし、広いテラスと橋で斜面に張り出す自然に自然に調和したセンター施設を設置 ・センター施設の背後には昔の耕作跡地を利用して、森の管理作業の拠点を整備し、森の材料を利用した子供たちの工作教室や様々な自然体験教室などを開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・森の活動案内・情報展示機能（四季折々の里山の姿を集約展示） ・休憩・交流拠点 ・市民活動・自然体験・学習拠点 ・樹林等自然環境の維持管理拠点
2 森の里広場	耕作跡地の平坦地と周辺の雑木林を活かしたアクティブな活動空間と、里山風景の演出。	<ul style="list-style-type: none"> ・拡張部の急峻な地形の中で唯一広がりのある平坦な場所であり、耕作跡の石積みやカキ・ウメの木等が残る場所。これらの要素を生かしながら、かつての山里の風景を再現した広場として整備 ・広場の中央部に残るエノキの大木を中心に、古民家を利用した「古民家体験学習施設」と花のある農家の前庭、菜の花やソバなど季節の花に覆われた畑、カキ・ウメ・クリ・クルミなどの実のなる樹園、樹林など自然の素材を活用した遊び場などを整備して昔なつかしい山里の風景を創造 ・急峻な斜面に張り出す広場の地形を生かしながら、北アルプスや安曇野が一望できる眺望ポイントも整備 ・「古民家体験学習施設」は無料休憩所として利用できるほか、ソバ打ちの体験教室や試食会、季節ごとの収穫祭も開かれ、地域ならではの伝統文化の伝承も担う施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・原っぱでのピクニック ・里山の自然体験・観察 ・原っぱや林間での遊び ・里の風景観賞とイベント開催 ・園路沿いの花による誘導
3 北入口広場	北アルプス側の優れた展望を活かしたサブエントランス。	<ul style="list-style-type: none"> ・松本トンネル取付道路に接する区域の北端部に、収容台数30台程度の駐車場と案内板を設置した小広場、既存のため池を生かした水辺の休憩広場を整備 ・樹林の少ない斜面上の広場として、開放的な空間と北アルプスや安曇野への優れた眺望性に配慮した北方面からの入口 ・地形の改変を避けながら直接「里の広場」に往来できる園路を整備し、登り下りのない歩きやすい動線設定に配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ・北側からのエントランス・小駐車場 ・小休憩 ・北アルプスへの展望
4 しぜんかんさつの森	尾根沿いに、生き物たちのための自然豊かで多様な樹林を創出。自然観察のための若干の施設導入と自然育成管理。	<ul style="list-style-type: none"> ・現況の尾根道はそのまま残し、動線沿いの林床整理やコナラ・クスギ林などへの変換を行うことにより、動物（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類など）や植物の多様な生息生育環境を創造 ・施設的には、尾根の斜面に張り出す小さな展望デッキや、野鳥観察が可能な小広場、昆虫観察ができる樹林や草地、峠の休憩広場など必要最小限の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察・ふれあい・散策 ・尾根沿いの小休憩・展望（辻広場。峠の広場）

ゾーン名	整備方針	利用計画	機能
5 花の丘	東側小丘陵の緩斜面を活かした花の拠点。	<ul style="list-style-type: none"> ・丘陵地の緩斜面を活かし、既存のカスミザクラをはじめとする花木やヤマツツジなどの低木、山野草の草花など季節の花が美しく咲く拠点として整備 ・森の入口広場からは、幹線動線の連絡で往来をしやすくし、丘の中央部に残るハウノキは、広場を特徴づけるランドマーク（景観を象徴する要素）として位置づける。また、東入口駐車場からも見渡すことのできる緑の中に映える季節の花空間を演出。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな花見・ピクニックの拠点 ・季節の花木の観察 ・展望と手軽な散策コース
6 いきものふれあいの水辺	沢沿いの湿地帯を活かした、水の自然観察空間の創造。	<ul style="list-style-type: none"> ・公園内では唯一残る谷間の小さな沢と水田跡地を活用して、水辺の自然観察や散策のための空間を整備 ・沢の水を保全しながらホタルや水生生物が住める流れを再生し、流れ沿いに自然観察のための園路を整備 ・水田跡は現況の地形を生かしながら、ハナショウブや湿地性の植物を集めて楽しみながら散策できる水辺 ・水辺に連続する山裾の樹林に関しても、生物にとって良好な生息生育環境としてのつながりが保てるように樹種の転換などを含め、保全・育成に努力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタルやトンボ、など水辺の生き物の観察 ・湿地の植物の観察・観賞 ・水辺の散策 ・流れの浄化
7 東入口駐車場	アルプス公園の中央に位置する緑陰駐車場。	<ul style="list-style-type: none"> ・拡張部の東側に接する小丘陵を、アルプス公園全体の中央駐車場として500～600台収容の駐車場として整備。 ・公園との間に、水辺の広場から続く谷があるためこれを渡る連絡橋を整備して、新しい入口のシンボルを形成。また、駐車場のまわりは、既存林を残しながら季節の草花を植栽して、花と緑に囲まれた魅力ある空間の創出。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑と舗装面の共存する駐車場 ・既開設部と拡張部への新たなエントランス空間
8 散策道		<ul style="list-style-type: none"> ・7ヶ所の利用区域は、それぞれが散策路で連絡して一周3kmの拡張する動線上に設定 ・小規模な耕作跡の一部や動線沿いの疎林の林床を利用して、季節の山野草が一面に咲く花畑を整備するほか、休憩広場や遊びの小空間を点在させて、全ての利用者が散策を楽しめる空間づくり 	

各ゾーンと利用・体験メニュー

利用・体験メニュー		空間整備イメージ	対象ゾーン
自然観察	野鳥観察、昆虫採集、植物観察、動物の足跡観察、樹林地整備、野草観察	既存林の中に細園路を通し散策ルートを設定し、各所に自然の野鳥・小動物等が観察できるポイントを設ける。また、環境学習の場としての活用や、市民参加による樹林地整備も可能	森の入口広場 いきものふれあいの森
		既存林を整備し、草地を主体とした広場を整備する。野草は草刈り頻度や日照調整によってコントロールし、在来種のみ野草とする。	薬草園
里山体験	樹林管理(下草刈り、間伐)、きのこ栽培(ほだ木づくり)、そば栽培、そば打ち、草木染め、竹細工、木工芸、山菜つみ、バーベキュー、木の実ひろい、お月見、農作業、民話・怪談話、ツル編み、炭焼体験、リンゴ狩り	既存林を整備・活用し里山の風景を演出した広場	森の里広場 自然体験のための広場空間
観賞	草花観賞、花見	在来種を中心としたサクラやツツジ等の花木を植栽した広場	花の丘
		周辺地域で見られる野草を収集し観賞できるように整備する。	自然観察ルート 散策路 いきものふれあいの森
水辺観賞	水辺を歩く・遊ぶ、水生植物をみる	現況のせせらぎに親水性をもたせ、散策ルートを設定する。また、水生植物スポットを設けることも可能	いきものふれあいの森
情報収集	緑化情報収集、緑化相談、園芸講座開催	緑化に関する情報提供拠点として整備	森の入口広場
スポーツ	ウォーキング、フィールドアスレチックをする	現況地形・既存林を有効利用し整備する	園路 トリムスポット
休憩	休憩する、展望する	園路沿いに休憩スポットを設ける。また、展望ポイントには地図サイン等も設ける	休憩広場、展望広場、四阿

緑地保全活用の方向性



各ゾーンの緑地保全活用の方向性

各ゾーンの緑地保全の方向性の設定にあたっては、目標とする環境の設定が必要である。

目標とすべき環境（植生）は、各ゾーンとも地域の生態系としての機能をもち、動植物の生息生育環境としての役割を担うことから、計画地周辺に従来あるべき自然環境を基盤とする。

また、目標とする環境の創出にあたっては、各ゾーンの現況の特性を活用しながら形成を図り、維持していくことが求められる。これらをふまえ、各ゾーンの緑地保全の方向性を以下のように設定する。

A 景観保全ゾーン（樹林）【赤】

拡張部の稜線を形成する良好な樹林地景観を保全するゾーンである。

アルプス公園の稜線を形成するアカマツ等の樹林を保全して、地域の特色ある緑、健全な樹林を保護育成する。

目標とする環境(植生)は、基本的には現況の植生とし、自然の遷移に委ねた管理で維持する。

B 環境保全ゾーン（樹林）【青】

拡張部の自然環境の骨格となる樹林を保護・育成するゾーンである。

自然度の高い樹林を保護・育成し、地域の特色ある緑、動植物のたような生息生育環境を形成する。

計画地周辺の潜在自然植生である森林植生を目標とし、自然の遷移に委ねた管理で維持する。

C 里山環境再生ゾーン（樹林）【緑】

里山の風景を形成する雑木・花木等、魅力ある樹林を創造するゾーンである。

既存林の伐採更新や下草刈りなど適切な管理を行い、里山の基盤形成、動植物にとって多様な生息生育環境の保全を図る。かつて定期的に管理されていた雑木林を主な目標植生とし、良好な状態で維持管理していく。

D 生物多様性ゾーン（水辺・湿生林・疎林）【オレンジ】

湿生林を含む水辺や、疎林、林縁植生等、動植物の多様な生息生育環境の形成を図るゾーンである。このゾーンは主に現況の立地環境に対応した小動物の生息環境の形成を図る。

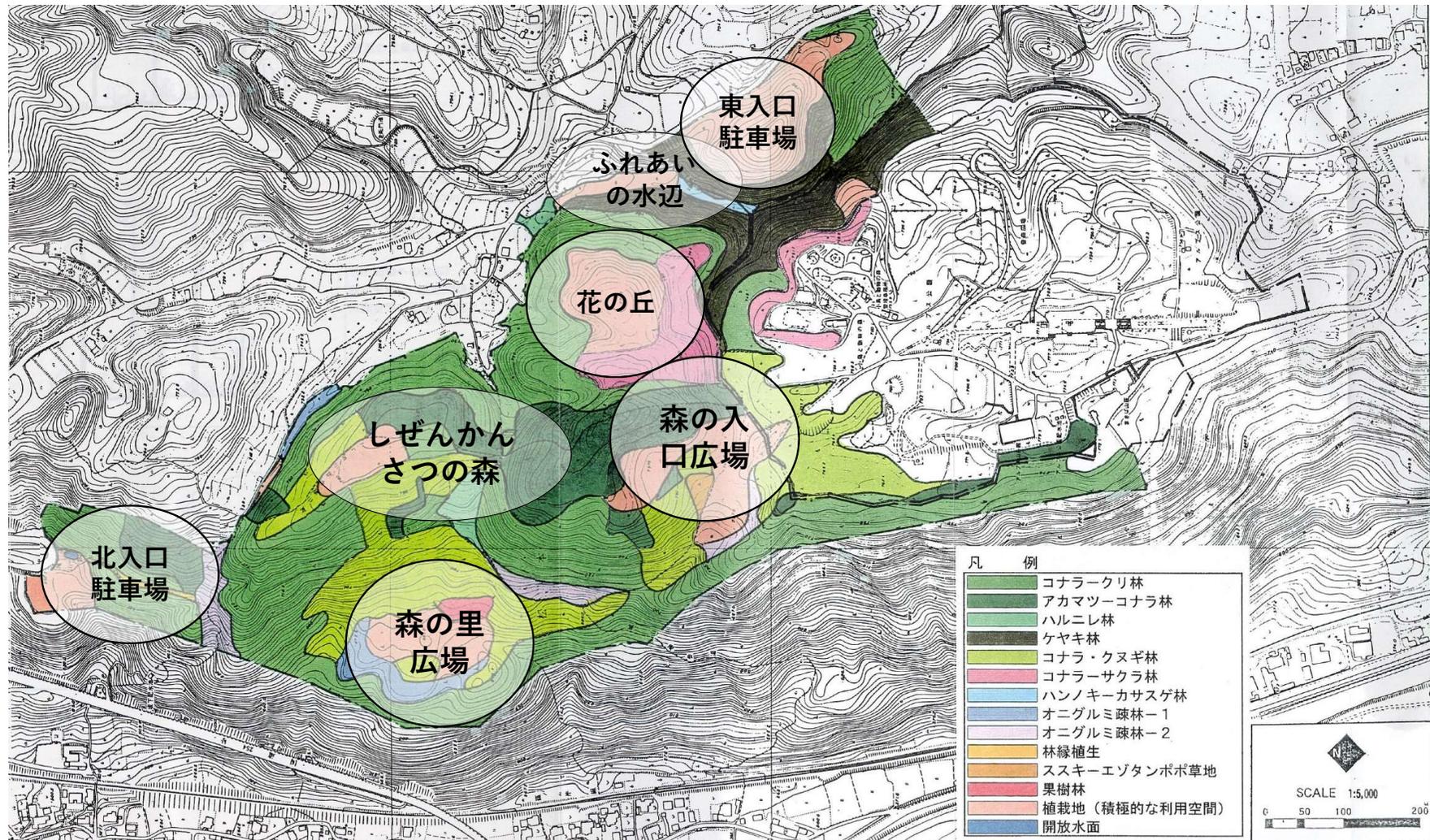
E 公園活用ゾーン【ピンク】

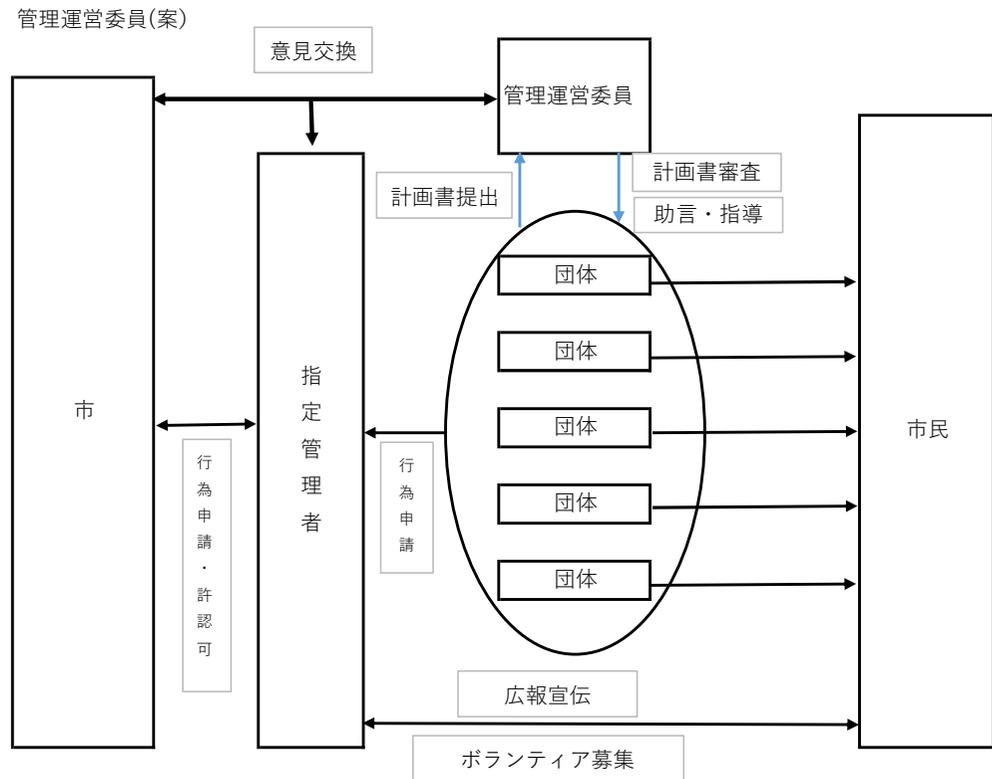
開発への許容度の高い植生を活用し、広場や公園施設を整備するゾーンである。

現在生育する象徴的な植物の保全を図りつつ公園利用に必要な施設の整備を行うとともに、動植物との身近なふれあいの場を創出する。

既存樹木、既存林を残し周辺環境に調和した空間（植栽地）の形成と、小動物の生息、誘致を図り環境創出を図る。一般的公園の植栽地の管理手法や耕作地周辺の管理手法を採り、形成された環境を維持していく。

目標植生図





管理運営委員の役割

- (1) 活動方針の設定
- (2) メニューの立案・実施
- (3) 年間スケジュールの作成
- (4) 人材の確保

広報・宣伝

- (1) マスメディアの活用
- (2) インターネットの活用(HP)
- (3) 口コミの活用 (SNS等)
- (4) 企業の活用

公園緑地課

- TOYBOX
 TOYBOX・各団体
 各業者とのタイアップ

行ってよかった！無料観光スポット 2014

2014年10月23日

観光 観光地 観光施設 旅行 国内旅行

トリップアドバイザーは、トリップアドバイザー上に投稿された過去1年間の口コミ評価を基に、「行ってよかった！無料観光スポット 2014」を発表。今回のランキングは、庭園などの定番スポットのほか、自衛隊施設、蒸溜所や醸造所といったお酒の製造工場が多く占め、これからの秋のお出かけシーズンには是非訪れたいスポットのリストとなりました。

【行ってよかった！無料観光スポット 2014 トップ20】（※括弧内は前年度順位）

順位 / 施設名 / 所在地

- 1位 (1) / 黒部ダム / 富山県中新川郡
- 2位 (9) / ニッカウキスキー余市蒸留所 / 北海道余市郡
- 3位 (-) / 海上自衛隊第1術科学校(旧海軍兵学校) / 広島県江田島市
- 4位 (-) / 修学院離宮 / 京都府京都市
- 5位 (14) / 海上自衛隊呉史料館 / 広島県呉市
- 6位 (-) / オキちゃん劇場(イルカショー) / 沖縄県国頭郡
- 7位 (-) / 東京都庁舎 / 東京都新宿区
- 8位 (-) / サントリー白州蒸溜所・天然水白州工場 / 山梨県北杜市
- 9位 (15) / 桂離宮 / 京都府京都市
- 10位 (8) / サントリー山崎蒸溜所 / 大阪府三島郡
- 11位 (13) / 松本市アルプス公園 / 長野県松本市
- 12位 (-) / 天官山ジャンプ競技場 / 北海道札幌市
- 13位 (-) / 八芳園 / 東京都港区
- 14位 (-) / 浅草文化観光センター / 東京都台東区
- 15位 (5) / ホテル椿山荘東京庭園 / 東京都文京区
- 16位 (2) / インスタントラーメン発明記念館 / 大阪府池田市
- 17位 (-) / 京都伝統産業ふれあい館 / 京都府京都市
- 18位 (-) / キリン横浜ビアビレッジ / 神奈川県横浜市
- 19位 (12) / オリオンビール名護工場 / 沖縄県名護市
- 20位 (3) / エアパーク(航空自衛隊 浜松広報館) / 静岡県浜松市

その他、詳しいサーチ内容はネタ元へ

[トリップアドバイザー]

行ってよかった無料観光スポット2014

(https://www.lisalisa50.com/research20141023_15.html)

先月27日、アルプス公園の未来についての「多事争論会」が開かれ、賛否両論の意見が出されました。市長はオートキャンプ場新設ありきで返答していましたが、まだ、これらの意見を考慮して進めていくのだと思っていました。ところが、1日付本紙には「予算化へ準備」とあり、対話集会は何のためだったのかと思いました。

円かかりますが、動物園もあり、楽しみながら上っていくと小銭程度で遊べる遊園地があります。岡谷市のやまびこ公園は、少額で自由に乗り降りできるアナウンス付きトレインが、広い園内を走っています。塩尻市には悪天候でも遊べる広い施設があります。

アルプス公園の未来

行くたびに感じていたのは、施設の管理が行き届いていないことです。知られていない北エリアの設備、沼のような池、動きが悪くなった古くなったりした遊具、水遊びするには汚い流れとためめり、元気がない動物たちなど、悲しく思っていました。これから5年かけて改修されると聞き、ほっとしました。

須坂市の臥竜公園は入園料200

口差点
こうさてん

松本市にも子供広場はありますが、土曜日・日曜日はほぼ休館で、行事があっても予約制です。人口減少を食い止めるには、子育て世代が住みやすい場所になることが必要です。公園を維持管理していくにはお金が必要です。負担にならない程度の入園料ならノーと言う人はいないと思います。市民が楽しめる場所、特に子育て世代が安心して遊べるアルプス公園を望みます。

(松本市寿北6、宮沢純子、62歳)

アルプス公園に関する記事 (2021/12/14)